

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770201143		
法人名	社会福祉法人 会津若松市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームみなづる		
所在地	福島県会津若松市河東町郡山字中子山25番地1		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成30年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前にある畑で野菜づくりを行っている。できる方だけの作業ではあるが、農村地であるため入居者の半数以上の方が経験している。また敷地内にある園芸ふれあいセンターでは、地域のサロン会の皆さんや、隣接する保育園の子供たちとふれあい、ジャガイモやサツマイモづくりを行っている。毎日食材の買い出しに出かける他、冬期間を除き毎月外出行事を立案し季節の分かる想い想いの場所へ外出している。防災訓練については毎月行い、地元消防団や赤十字奉仕団、民生委員の皆さんにも協力を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 運営推進会議委員は各分野から広く選任され、会議は定期的に開催されている。会議では毎回活発な意見が交わされており、事業所の運営やサービスの向上に活かされている。
 2 事業所では家族会が結成されており、家族と合同の行事も毎年行われている。また、年3回家族会を中心に事業所の清掃活動(窓ふき、草刈り、大掃除等)を実施しており、事業所と家族との協力関係が構築されている。
 3 事業所では外出支援を年間計画し、多様な外出支援(スイーツの旅・白鳥見学・会津藩校行列・初詣・花見・紅葉狩り、お花見等)を実践している。

あやめや菜の花見学等)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考案した五つの理念を掲げている。家族の意向も取り入れ、日々地域の皆さんと交流できるよう支援している。また毎月の職員会議では全員で理念唱和を行い再確認している。	事業所理念は地域密着型サービスを踏まえたものとなっている。「利用者、家族、職員が一つの家族」とうたっており、「笑顔あふれる家庭づくり」を大切にしている。全職員が理念を共有し日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や夏祭りに参加する他、近所のスーパーで毎日の食材の買い出しにいき店員さんや地域の人と馴染みの関係になっている。また敷地内にあるふれあいセンターでは近所の保育園の園児やサロンの会のみなさんと交流を図っている。	地域の行事に積極的に参加しており、藩校行列見学・川東学園パレード見学等に出かけ、地域の方々と触れ合う機会を多く実施している。また、中学生の職場体験や福祉専門学校生の実習も受け入れている。さらに通年計画で5団体のボランティアを受け入れており、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みなづる家族会主催による「ふくしの時間」イベントを開催し地域の皆さんに認知症の理解や支援方法、みなづる見学会を行い理解を求めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事故、ヒヤリ報告を上期下期と年2回報告を行う他、各委員会からの報告をし、運営推進会議委員から疑問点や意見を頂き、事業運営に活かしている。	運営推進会議は定期的開催されており、内容は行事、利用者の状況、防災訓練、衛生管理、事故報告等多岐にわたっている。委員から様々な提言があり、活発な会議内容となっており、事業運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市総務課や高齢福祉課の担当者には当事業所の防災訓練に参加して頂く他、規程の見直しや入居者の抱える問題等相談し協力を頂いている。	機会あるごとに行政担当者は事業所運営や利用者に対する相談等について情報を交換しており、常に連携を密にしている。市の行事にも積極的に参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギは夜間のみ施錠し、扉を開けるとチャイムが鳴る設備となっており、チャイムが鳴った際には寄り添い同行することとしている。また研修も行い身体拘束ゼロを実施している。	研修会を通して全職員が「拘束の弊害」について理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。特に「言葉による抑制」についても日々全職員が意識を共有して実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、更衣時、排泄交換時等あらゆる場面でアザの有無の確認を行い見過ごすことのないよう努めている。言葉による虐待も含め、研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議委員には成年後見人の方にも参加して頂き、学ぶ機会も持っている。入居者に後見人がいるケースもある。また市独自の制度も活用紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や入居中退去に至るまでの不安や問題点今までの経過の出来事等重ね重ね説明し、一つ一つ理解、納得するまで話し合い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や毎年行う家族アンケートを活用し意見を求めている。またその結果を職員会議や運営推進会議で公表し、見直し日常生活がより良いものとなるよう取り組んでいる。	家族の意向等は面会時や家族会の折に聴取している。また、「家族アンケート」を実施している。家族からの意見や要望は「職員会議」等で検討され、事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には家族会開催時に参加して頂く時間を設け直接家族の方と面会、話を聞く場面を設けている。また毎月職員会議を行い、フリートークの時間も設け意見を反映している。	管理者は職員とのコミュニケーションを大事にしており、職員が気軽に話せる環境となっている。また、職員会議等でも意見や提案を把握しており、事業所運営に反映させる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜間勤務状態、資格手当、臨時職員から正規職員へ登用、やりがいのある職場づくり等働きかけているが、整備には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行う研修、各職員の適正や能力に応じ外部研修にも参加している。また資格取得に向けた助成制度も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症GH協議会に入会し会津地区の研修委員を行う。地区の管理者会議で情報交換や研修の立案職員同士の交換研修などに取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する段階で本人の不安を軽減するために今まで使用されていた家具類や寝具を持ち込んで頂くよう提案させて頂き、また、不安や要望、生活歴等を確認し初期支援にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもとより家族が抱える不安、悩み、要望等をお伺いし、定期受診や看取りに関すること等も含め傾聴し、家族が安心して暮らせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査に伺い、本人家族と向き合い、現在困っていること等調査し、利用しているサービス事業所とも情報を共有し、何が必要なのかを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で食事づくりや掃除洗濯等できる範囲の中で行っている。また気候により畑作業や食材の買い出しも一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が協力できる場面等考え提案している。家族会による奉仕作業、イベント開催等、面会できる機会作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで住んでいた家や近所様、勤めていた会社等に訪れる故郷訪問を行事に取り入れ再会できるよう支援している。またいつでも面会して下さるようお願いしている。	友人・知人の訪問も多く、これまでの交際が継続できるよう支援している。家族の協力を得て、墓参り・買い物・外食等を通して馴染みの場所に出かけている。理美容院の利用も家族対応で支援しているが、訪問理容も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにおけるお茶飲みや食事の際の座る場所のこだわり等配慮し利用者様同士が気持ちよく過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られたケースはないが入院退去されても面会に行ったり、その後の経過など家族にお伺いし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用と普段の会話の中で利用者一人ひとりの意向や想いの把握に努めている。意思の疎通が困難なケースは、声掛けによるしぐさや表情などから想いをくみとるよう努めている。	利用者の意向の把握にはセンター方式を採用しており、日常の散歩や入浴時の何気ない会話などから利用者の意向や要望を聴取している。把握した意見や要望は全職員で検討し、利用者の心身状況にあわせた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用事業者より情報頂く他、本人家族より生活歴を伺い、暮らし方の特徴やこだわりのある生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の一日の過ごし方や心身状態の把握に努め毎日のミーティングで変化や気づき、出来る事等、確認し合っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状や満足度のモニタリングを行い、また家族にも参加して頂きカンファレンスを行い、主治医や看護師の意見も加味しながら、利用者本位の介護計画を作成している。	日々のケアの中から利用者の現状を把握し、本人・家族と話し合い定期的に介護計画を見直している。利用者の状態が急変した場合には本人・家族・主治医・看護師及び職員が協議の上、随時現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の暮らしでの気づきや計画の実践をケース記録介護支援経過記録に記載し、職員間で情報を共有し計画書支援の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が遠方にいる方の場合、役所等の手続きや生活用品の購入など職員同行しおこなっている。その他定期受診、臨時受診、本人の想いで外出したい場合等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内にある園芸ふれあいセンターで笑いヨガ教室や、ボランティア団体による料理教室、施設前にある畑で野菜作り等、一人ひとりが力を発揮でき楽しみをもって生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族様の希望を尊重し受診している。臨時受診や定期受診でも職員が同行するなどしかかりつけ医と信頼関係づくりも積極的に行っている。	かかりつけ医の受診には家族対応を基本に支援しているが、緊急時等には職員が対応する場合もある。受診時には利用者の体調や状況を家族に伝え、その結果は事業所に報告をもらい全職員で共有している。利用者によってはかかりつけ医の往診もある。歯科医は往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は皮膚の観察や日々の状態に変化のある部分、不安、気づき等あれば看護師への申し送りを記載し適切なアドバイスをもらう他、受診同行も行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はそれぞれが情報提供を行い、生活が安心したものになるよう支援している。また、入院中、家族ができない部分を職員が支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のアセスメントに於いて、事業所の指針を説明しターミナル期の希望を伺い、全職員で共有している。利用者の状態変化や家族の意向変化も含めカンファレンスを行い対応している。	利用開始時に「重度化した場合における対応にかかる指針」及び「看取りに関する指針・看取り介護についての同意書」を家族に詳しく説明し同意を得ている。利用者が重度化した場合には家族の意向を再確認しながら医師・看護師・職員がチームで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の中で消防士からの指導を受け訓練している。内部研修に於いてもマニュアルの見直しを行い一つ一つ確認し合い確実に実行できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜問わず災害想定し毎月行っている。消防署職員をはじめ、近所の方の参加や家族、運営推進委員、地元消防団にも参加して頂き、協力体制を築いている。	消防署立ち会いの防災訓練のほかに事業所独自の防災訓練を年間計画し、毎月訓練を実施しており記録も残されている。災害発生に備え、各種設備の点検を行ったり、食料品や飲料水等を備蓄している。地域住民や地元消防団の協力体制も構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	室内の温度管理や座る場所の配慮等、一人ひとりの主張にできるだけ対応をしている。また入浴、排泄誘導時の声掛け、特に排泄失敗時には注意を払い支援している。	さりげない声掛けをして、利用者の尊厳を損なわないように対応している。プライバシーの確保についての内部研修を実施し全職員が意識を共有している。利用者の個人情報に関する書類等は施錠可能なキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己主張できるようコミュニケーションを図っている。その他、嗜好調査も定期的に行い、各利用者の希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活歴、趣味等を現在の暮らしの中に取り入れられるよう努めている。利用者優先をモットーにその人らしい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室や床屋さんを利用できるよう支援している。更衣時には季節に合わせた色や柄を選んでいただき、また外出先を伝えおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者に合わせた食事作り作業を職員と一緒に食材加工、味付け盛り付けを行っている。同じテーブルを囲み利用者職員一同で食事をし、片づけもできる範囲で一緒に行っている。	献立表は職員が利用者の希望を取り入れながら作成し、食材は近所の商店から調達している。利用者は食事の下ごしらえや片付けなどできる範囲で職員とともに行っている。行事食も多く実施しており、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の状態に合わせて提供している。摂取量や水分は記録に記載し、一日を通して少ない方には補助食品なども提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き声掛けや介助、誘導、仕上げ等さまざまに対応している。また個別に訪問歯科診療も行い定期的に口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の状況やペースに合わせた声掛け誘導を行っている。車椅子使用の方でもできる限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、仕草や時間を見計らい誘導し、トイレでの排泄を目標に支援している。利用者の中には改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家製サツマイモやヨーグルトを献立に多く取り入れる事や日常生活の中で散歩、畑作業、モップ掛け等、体を動かす支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間帯に入浴することや湯加減の調節、菖蒲やゆずを入れる季節湯、その他希望に合わせた入浴剤を使用し拒否が少なくなるよう支援している	利用者の希望に合わせて入浴できるよう支援している。入浴拒否者には担当者や話題、時間を変えながら誘導し、気持ちよく入浴できるようにしている。状況に応じて足浴・シーワ浴や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居される前の生活習慣や現在の状況を考慮し本人が安心して睡眠がとれるよう支援している。眠れない場合、居室のベッドだけでなく談話室のソファや温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会議で利用者一人ひとりの服薬内容の確認を行っている。体調の観察を行い変化時には、主治医、看護師と連絡を取り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の外出や、一人ひとりの生活歴を参考にし習字や畑仕事、裁縫等日々の生活の中で満足感が得られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアの協力を得、毎月外出行事を計画実行している。普段の買い物その他、笑いヨガへ参加したり、夏祭り、会津まつりの藩公行列、小学生による防災パレード見学に行っている。	好天時には事業所近隣の散歩を楽しんでいる。事業所では外出の機会を多く企画し実施している。また、季節ごとに菜園での野菜作りを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の中で道の駅で嗜好品の購入や、近くのスーパー、ホームセンター、ドラッグストアへ行き化粧品クリーム等、好みの物の購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い作成は行事に取り入れ、書くことの困難な方は手を添え書いている。外出した際の写真や誕生会の写真を送り、お礼の電話をつなぎ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室は畳敷きで障子戸や襖になっており昭和の家庭雰囲気となっている。共有スペース前廊下は、明るい日差しが入り込み畑作業風景や夜景なども自然に目に張ってくる。	共用空間は食堂エリアと和室の談話室に分かれており、談話室にはソファやマッサージチェア、リクライニングシートがあり、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファやマッサージチェア、リクライニングシートがあり、それぞれ思う場所へすわることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居前に使用されていた家具類を持ち込んで頂き、位牌を祀ったり、家族写真や外出の思い出写真、バースデーカードを貼り居心地の良い部屋となるよう工夫している。	居室は和室と洋室があり、全室にベット・ナースコール・換気扇・エアコン・床暖房・洗面所が設置されており、和室は押入れ、洋室はクローゼットとなっている。利用者はそれぞれに使い慣れた家具等を持ち込んで居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ案内の張り紙や自分の部屋へ戻る際場所がわかるよう菓子箱に名前を貼り掲示し工夫している。		